

河南町中学生フォーラム

平成 21 年 2 月 16 日開催

【まえがき】

河南町では、平成 13 年に「みどりと文化 活気あふれる健康のまち」を将来像とする第三次総合計画を策定し、それを指針としてまちづくりを進めています。

第三次総合計画は、概ね 21 世紀の第 1 四半期頃を展望したまちづくりの基本構想とそれに基づいて施策の基本的内容と実現化方策を定めた基本計画により構成されています。基本計画は、概ね平成 22 年（2010 年）を目標年次としており、現在、新たな総合計画の策定作業を進めています。

そこで、町では、新たな総合計画の策定にあたって河南町の次代を担う子どもたちの率直な意見を聞かせていただくため「中学生フォーラム」を実施しました。

このフォーラムには、河南町立中学校から 1・2 年生の有志 21 人に参加していただきました。

フォーラムでは、日頃疑問に思っていることや、教育、福祉、公共施設、環境及び町の PR などについて感じたこと、また、河南町の魅力や将来について質問や意見、提言がありました。

フォーラムでの意見や提言などは、今後のまちづくりに反映させたいと考えています。

河南町中学生フォーラム記録

1. 日 時 平成 21 年 2 月 16 日（月）
午後 3 時 00 分 開会 午後 5 時 20 分 閉会
2. 場 所 河南町役場 4 階 大会議室（南）
3. 出席者
- | | | | | |
|------|--------|-------|-------|-------|
| 2 年生 | 辻上 裕太 | 村治 直 | 岡上 大翔 | 堀切 俊祐 |
| | 横田 幸子 | 杉原 拓也 | 仲林 由衣 | 山口 泰輝 |
| | 山本 裕介 | 仲谷 聖矢 | | |
| 1 年生 | 沖田 祥一朗 | 古川 雄一 | 久保 菜摘 | 山本 桃華 |
| | 植松 慎也 | 南 穂香 | 浅野 萌 | 大出 裕介 |
| | 三宅 萌 | 木下 智絵 | 松兼 輝明 | |
- 町
- | | | |
|------------|-------------|-------|
| 武田町長 | 江島副町長 | 浅野教育長 |
| 新田総合政策担当理事 | 高野総務部長 | |
| 池田住民部長 | 上條健康福祉部長 | |
| 大橋まち創造部長 | 福本会計管理者 | |
| 葛田教育次長 | 富田消防長 | |
| 森田企画財政課長 | 奥野企画財政課課長補佐 | |

【町長開会あいさつ】

紹介いただきました武田勝玄です。改めて皆さんこんにちは。今回こうして皆さんに集まっていたいたかという、皆さんもいろいろ計画を立てることがあるでしょう。

行政において、向こう 10 年間の計画を作ることになっています。法律でも決められています。

皆さんの生まれる以前の昭和 54 年に第 1 回の総合計画を作って、今は 3 回目の計画の期間です。今回、第 4 回の計画が平成 22 年から始まります。

計画を作るためには、いろんな住民の皆さんの意見を聞いたほうがいいでしょ。このために、若い人の意見も聞くために 2 月 4 日に小学生の子ども議会を開催しているんな要望をいただきました。役場の担当部長から質問に答えました。

今回は、中学生の人のお考えを知って、新しい総合計画を作る参考にさせてもらおうと考えています。ですから、日頃、考えていることを恥ずかしがらずにストレートに聞かせてください。

よろしくをお願いします。

河南中学校では、昼食は弁当など各家庭から持ってきています。毎日、親が忙しい時間を削って、朝練に間に合うように作ってくれています。もし、給食になれば、親の負担も少なくなり、栄養面に関してもバランスのとれた食事がとれると思います。一方、親子のコミュニケーションという面で、お弁当も大切だと思います。そこで、富田林市のように希望制になればありがたいのですが。

【回答 武田町長】

富田林市のような希望制を実施したらどうか、という質問ですが、富田林市はどのようなやり方をしているか、調べてくれていますか。富田林市は、仲谷君の言ったとおりです。

自分のお弁当は、自分で作るという人はいますか。私は中学生の頃、母親が忙しいときには、自分でお弁当を作っていました。そこで、皆さん方のお母さんが本当に忙しい、大変なときには、皆さんが自分でお弁当を作ることができる、と思います。そういうことをたまにはやって欲しいと思います。

今質問があったことは、とても大事だと思うし、今一生懸命考えているところです。どうしたら一番良いのかを。皆さんが小学校の時は、給食だったと思うのですが、小学校みたいに給食をするには結構大変ですので、料理するところとか、ご飯を炊く釜だとか、それが中学校で出来るのかな。それと君たちのように中学生になってくると、好き嫌いが出てくると思います。それと体の大きい人も出てくると思います。ご飯をたくさん食べると思います。1年生と3年生とで比べたら、3年生の方が1年生よりたくさん食べると思います。また、運動クラブの人は、お腹が空くのでたくさん食べると思います。そういうことを色々考えると、小学校と同じようにはいかないだろう。と言うようなことから今、一生懸命考えているところです。将来できるかもしれない。その時にはもう、君たちは中学を卒業していない。その時は、ごめんね。と言うことです。

家でお弁当を作ってよ。前日の夜の残ったおかずとご飯を詰めると、簡単にできるよ。そういうことです。

希望制というのは富田林市の中学校でテスト的に実施しているし、全国でもいっぱいやっているのだから、それらを研究して、どうしたら失敗しないかを今、一生懸命研究中です。

河南中学校の生徒の校区はとても広いです。一部スクールバスが運行している地区もありますが、さくら坂や平石など、登下校がとても大変です。車との接触や転倒の事故があったり、下校時は人家がなく、とても心細いです。そのため送迎の車に頼ってしまうのですが、スクールバスを考えていただけませんか。

【回答 武田町長】

自転車通学をしている人は、手をあげてください。半分以上ですね。それじゃ、自転車通学ではない人、歩いて通学している人は。お父さんかお母さんが運転する車で通学している人もいますね。

実はですね、大変難しい問題です。何が難しいかと言うと、まず、今ある道は昔造った道が多いんです。その道を造ったとき、もう何十年も前、その時は車ももっと少なかったし、歩いていても比較的安全だったんです。その時には自転車が安全に通るとか、人が安全に通れる歩道とかは、あまり考えられていなかった、何十年前は。時代は変わってきて、車が増えてきた。もう何十年も前から、そんな問題が出てきているんです。確かに恐いですね。夜も暗いですし、街灯の問題とかもあるし、通学の安全、安心という問題は、我々行政がちゃんと生徒の皆さんのために、いい道、安全な通学路を提供しなければいけないし、それは、そのとおりですね。今できている道に歩道をつけるとか、自転車専用道路をつけるとかすると、今の道の横に家があったり、今の道のすぐはしが崖になったりしていて、いろんなところがあります。なかなかやりたくてもできない。

もうひとつの問題は、体力の問題だと思うのです。私がこの中学に通っていた頃は、二キロちょっとだったんで歩いたんです、もう四十年も前のことですが。送ってもらう車が家に無かったのです。今は、どのお家にも車が有ると思うんです。送ってくれる人がいなかったんです。もう歩くしかなかったんです。雨の日も歩きました。風の日も大きなかばんをさげて傘をさして歩きました。歩いたんです、昔は。その時歩いた道が今でも記憶に残っていて、今はずいぶん風景も変わりましたが、昔歩いた、3年間歩いた道が頭の中に残っているのです。それはふるさとというか、自宅と中学校を自分の足で歩くことによって、体に残ってしまうのです。それと多分、体力が増すというか、自然に脚力が強くなると思うのです。自転車は勿論、脚力に関係があると思います。車で送り迎えをしてもらうと、非常に楽だと思ふし、お父さん、お母さんに感謝していると思ふすけれども、運動不足にならないように、気をつけて欲しいと思ふます。

最初の質問に戻るのですが、完全に自転車道ができないなら、できないで、今ある道に工夫をして、より安全に皆さんが通学できるように、それはすぐにでもできることもあれば、あるいは2、3年の間にできることもあるから、今はそちらの方を優先して考えています。道そのものを根本的に自転車道や歩道とかを付けたりするのは、府の道は府、国の道は国と相談しなければならぬし、ずいぶんお金がかかります。ですので、すぐにはできませんが、そういうことをしようと思ふて、一生懸命頑張っていくます。

障がいを持っているお子さんについては、例えば車いすに乗っている場合は、そんなに

長い距離を車いすで道路を走らないから、そういう人たちは車で連れて行ってもらう、通学できそうな形に環境を整えないといけない。乗り降りする時には、手助けがいるので、できるだけ同級生が乗り降りを手伝ってあげたり、そんな思いやりもあってもいいのかな、と思います。

街灯もつけたいのですが、街灯の場合は、明るくすればいいというものではないのです。例えば田んぼのところに街灯をつけると、作物に影響があるということで、はっきりと解明はされていないのですが、実り方や成長が妨げられるといわれています。近所に田んぼを持っている方が嫌がる時もあります。それから街灯については役場のルールとして、地区地区の方、区長さんとか自治会長さんからの要望をいただいて、ここに街灯をつけたい、という要望をいただいて、役場に申請してもらおうと、だいたい負担が半々と、役場のお金と言っても皆さんのお父さん、お母さんの税金ですけど、役場が半分、地区が半分を持ちましょう、ということで前に進んでいくのですね。街灯が少ないな、暗いなと感じたら、お父さん、お母さんに訊いて、その自治会や隣組に言ってもらって、そこで検討してもらって、本当に暗いなという判断になれば、設置するということになります。

河南中学校では、ほとんどの生徒が部活動に参加しています。現在、グラウンドは陸上部の短距離・長距離、野球部、ソフトボール部が利用しています。そのため、接触などの事故を避けるため、利用曜日を決めて使用しています。使えるグラウンドが他にもあればもっと思い切りできるのですが。

【回答 武田町長】

皆さん、そうそうと言っていますね。このグラウンドだけで例えばソフトボールとか野球をしたら、遠い所までボールが飛んでいきますね。端っこでも球は当たるよね。それはそのとおりなのです。本当は、グラウンドは、サッカーするならサッカーのグラウンド、野球するなら野球のグラウンド、テニスするならテニスのコートがあれば一番いいのです。理想的です。お金の話ばかりすると、いやなのですが、どうしても新しいグラウンドを造るときは、お金が必要となります。すぐにはできません。

今町では、総合グラウンドとあって、さくら坂にあります。そこを使うには、中学校から遠いのですが、大阪市内の学校では30分から1時間かけてグラウンドへクラブ活動にバスで行ったり、電車で行ったり、いろんな方法で移動しています。そのことを思うと、ここからさくら坂のグラウンドまでの距離はまだ、ましかなと思います。遠いけれども、行く方法を工夫してもっと使って欲しいのです。さくら坂のグラウンドは、広くて使いやすいのです。

陸上部は、池の周辺を工夫して使ってくれているよね。雨だったら、校舎の廊下、階段を使っているよね。他の運動部の人でも体力を作るのに走ったり、蛙飛びしたり、雨の時には校舎を使ったりしてるよね。天気、天候などに対応して、工夫したりして使ってくれている。ただ、ボールを使ったりする時には難しいけれど。

【回答 教育次長】

さくら坂の総合グラウンドには備品がないので、陸上部ならハードルなどの備品を持って行っていただかないといけません。

それといつ行っても使用できるということではなく、申請をしてもらわないといけません。申請していただいて、空いていたら使用できることとなっています。

移動手段については、学校の先生と相談していただければと思います。今通学用のバスが1台ありますので、先生方と相談していただければと思います。

河南中学校では、今年、2年生、3年生の数学と英語で習熟度別にクラスを分けて学習しています。それを他の教科で実施すれば、個々の学力がついて、授業への不安がなくなり、やりがいを感じていけると思います。そうすれば、もっと学力が向上すると思います。

【回答 武田町長】

できる人とか、できない人とかは教科によって違うよね。数学ができる人が国語とか他の科目ができるとは限らないので、授業ごとにクラスでグループ分けをして、優先順位をつけて、授業をやればよい。それに授業のカリキュラムのことについて私の方からは、あまり答えられません。学校の先生に相談をし、そういう意見が多ければ、そういう形にしてもらえばよいと思います。そうじゃないと思う人が多ければ、なかなか難しいとそう思います。

【回答 教育長】

「習熟度で分ける」、「習熟度で分けるとクラスがばらばらになってしまう」、「国語などは授業で色々な意見が聞きたい」といった意見がでてきましたが、それらはどれも大切です。どの教科もそれぞれ授業の仕方、単元によっていろいろとあると思います。だからきっと学校の中でも、習熟度別授業をしてもらう時、どの教科のどんなところがいいのかを考えて、してもらっているはずなんです。しかし、確かに普通の教科の普通どおりの授業に対して、多くの先生がいます。クラスに必要な先生がいます。必要な時に習熟度別授業をするのは大変、大事な事であります。国や大阪府に今、習熟度別授業に必要な先生を学校に来てくださいとお願いしているところなのです。先程出ていました3つの意見はどれも大切ですので、学校の方でも工夫してやってもらっていると思います。

そういうことで、先生がたくさん来てもらって、習熟度別の機会が増やせればよいなと思っており、大阪府にもお願いをしています。

私たちの学校には、車いすを利用している仲間がいます。小学校では電動車いすを利用していましたが、中学校では車が多く、また、道に起伏があり利用できません。車いすを利用している人や目の不自由な人が1人でも安全に外出できるように、スロープや音が鳴る信号、歩道の整備などをもっとしてほしいのですが。

【回答 武田町長】

ここにシャンプーとリンスがあります。どちらがシャンプー、リンスか分かりますか。横の凸凹は、目の不自由な人のためにも分かるようにしています。皆さんは知っていましたか。そのようなものをユニバーサル・デザインと言います。もうひとつバリア・フリーという言葉を知っていますか。障がいのない、という意味ですが、障がいを持っている方にとっても生活されるのに、不便がないようにユニバーサル・デザインにすれば、障がいを持っている人も、もっていない人も皆が便利になります。例えば、信号に音をつけるのも、ユニバーサル・デザインです。それに道路に凸凹をつけるのもそうです。

河南町の道というのは先程も言いましたが、狭い道があります。昔に造られた道というのは、歩く人のためとか、自転車に乗る人とかのことは考えていなかったのです。ましてや障がい者の方のことは昔は、あまり考えていなかったのです。世の中が進んで来て、それではいけないと言われだしたのがここ20年ぐらいです。今、その人たちのために使いやすいようにユニバーサル・デザインにしようとしているところなのです。ただすぐにどの場所も全部一度にできることは難しいですが、順番に最低限必要なことを少しずつやって行こうとしています。今の意見は、非常にいい意見だと思います。

では町ではどのようなことに取り組んでいるのかを、うちのプロの人から紹介してもらいましょう。まずは総務部長からお願いします。

【回答 総務部長】

すごく皆さんの優しい気持ちが伝わってきます。信号というものは、皆さんご存知かもしれませんが、警察が設置します。富田林警察に皆さんの声をお伝えしまして、河南町では、音のなる信号が今までにありませんし、初めてのことで、富田林警察署に聞いてきましたところ、色々のご要望してくれたら、いいということでした。要望していただくにあたっては、障がい者の団体、河南町でしたら、身体障害者協会という団体があります。会長さんは確か遠藤さんだと思うのです。そういった団体から、警察に要望してくれたら、警察の方として検討します、ということです。ただ警察では、富田林警察署管内は、富田林、太子、河南、千早赤阪の4つを一つの警察、富田林警察署管内になっています。この管内の中で信号がついている箇所は、235箇所あります。そのうち20箇所ぐらいが音がでる、動物の鳴き声とか、音楽が鳴ったり、メロディが鳴る、そういう信号です。特に駅前とかが多いのです。河南町では、こういったところが人通りが多いということもありますし、河南町の障がい者の皆さんがここに音のある信号をつけて欲しい、と要望を警察にしてもらうことになるのですが、先程も言いましたように235箇所のうち、20箇所ぐ

らいしか音のある信号がついていないし、これもお金が要りますし、信号自体も毎年新しい信号は2箇所ぐらいしかつけてもらえないのです、管内でね。河南町内で行くつかつかないかの数です。そんな状態で、予算もありまして、大変厳しい中で、皆さんの声を聞いて、警察は対応してもらおうということで、これからも頑張っていかなければならないと思います。

もうひとつですね、住宅街の中の信号にそれをつけると、いわゆる、やかましいというのか、ずうっとなっていますので、道路を渡るときに。そういったこともありますので、そういったことも考えて、要望していかなければならない、とそう思っています。

どちらにしても、障がいのお持ちの方、車いすに乗っている方、目の不自由な方に優しい社会づくりをしていかなければならない、役場としてもしていかなければならない、頑張っていきたい、と思っています。

【回答 まち創造部長】

道路について、道路はまず国道があって、大阪府の場合は府道、よそだったら県道というのですが、それから河南町の場合は、町道の3つの種類があって、国道だったら、309号が有名ですが、国道の場合は、当然国が管理するところを大阪府がやっています。その次に府道の場合は、この柏駒線、役場の前の道、これが大体町の幹線道路で、これを歩かれる人も結構あると思います。この道については比較的、段差があって、うねっている歩道になっているけど、それなりに歩道としては整備されていると思います。

歩道を整備しようと思ったら、土地を買わなければなりません。大きなお金がかかるので、大阪府は今、橋下知事の関係でちょっと予算が厳しいので、溝に蓋をかけて歩けるところを整備しようと、緊急的な措置としてやっています。府道に関しては。

それと、さくら坂の中学生は今特に通称、白木バイパスの比較的真っ直ぐの直線で、見通しが良いので、車がびゅんびゅんと走るという、その横を君たちが自転車で通学するのが大変危ないということで、地元のPTAの方から要望があって、今大阪府に歩道の整備をして欲しいと過去10年ずっと大阪府と交渉をしているのですが、これも当初、白木小学校側への歩道の整備、菊水苑とかあっちの子は分かっていると思うのですが、小学生の歩道をまず整備しようと、白木小学校へ行く歩道を整備して、菊水苑から白木小学校へ下っていく方は町の方で歩道整備をやってきました。白木バイパスは大阪府で安全対策、歩道の整備はちょっとなかなか難しいけれど、溝に蓋をかけるなり、また、ドライバーの人にスピードを落とすように呼びかけることもやっています。あと、あそこは両側に家がないので、街灯、電気も明るく取り替えていこうとか、そういうものを徐々にではあるんですけど、やっているんですけど、河南町の我々が管理している町道は、150キロぐらいあって、ここから名古屋の手前まで行くぐらいの道路を管理しています。それらすべてを今日、明日、ここ5年、10年の間にすべての道に歩道をつけることは、なかなか至難の業ということなんですけど、徐々にではあるんですけど、整備をやっていきます。君たちもそれがすべて整備できるまでは自分自身で安全に気を付けて、通学してもらいたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【回答 健康福祉部長】

質問の中にはなかったのですが、私の方は、施設の関係についてふれてみたいと思います。新しい施設、今ここに座ってもらっています庁舎、あるいは「かなんぴあ」については、すべてバリア・フリー化になっています。それからちょっと古い建物で、公民館についてはその建物が建った後に、バリア・フリー化、スロープをつけたり、障がい者の方に対して負担のないような施設にしています。

そういうことで誰でも、住民の皆さんが利用される施設については、今申しましたようにバリア・フリー化に努めています。

河南町は高齢の方が多いい町だと思います。しかし、町内には小さな医院しかありません。検査になれば、他の市へ行かなくてはなりません。そうすると、時間の面からも、体力の面からも高齢者には大変な負担となります。そこで、この町内に総合医療施設があれば安心できるのですが。

【回答 武田町長】

うん、そのとおり。家におじいちゃん、おばあちゃんいる？ いなか。おじいちゃん、おばあちゃんのいる人、手をあげて。おじいちゃん、おばあちゃんがそんなことおっしゃっているよね。聞いたことない？ どうして気が付いたの？ 自分が年いったら、大変だなあ、と思った？ あと50年も経ったら、大変だなあと思った？ このままいったらどうなるんだと思った？ それともお父さん、お母さんの話しを聞いた？ 遠くに住んでいるおばあちゃんか、そっか、そうか。

近くにあったら、やっぱりいいよね。近くに病院や診療所があったらいいよね。あとスーパーもあったらいいよね。買い物も近所でできればいいよね。学校も近所にあったらいいよね。近くにね、何でもかんでも近くにあったらいい。あなたの近くにも、あなたの近くにも、必要だと、みんなの数だけいるかも知れない。でも普通それはなかなか難しい。河南町にあったらいいと誰でも思うのですが、病院とか診療所とか、町立とか市立とかは、分かりますか。公立もあれば、私立もある。私立というのは、税金でやっていないところ、個人病院とか、勿論大きな病院とかもあるし、いろいろな形態があります。

町立とか市立、例えば富田林市立は、市立は市のお金でやっているのです。全国には町立病院はいくつかあります。市立病院を持っているところもあります。この近所だったら、富田林病院もあるし、藤井寺にもあるし、松原にもあるし、その松原はこの間、もう経営が行き詰まるから、もう松原市民病院はもうやめるということを市長さんが言って、今やめてもらっては困るということで、そういうふうな方々が申し込んでいる、やめないで欲しいと。税金をずっと使って、大変な赤字、税金を余分にいっぱい使うのです。お医者さんがいない、お医者さんが来てくれないのが一番の原因で、あとは経費がかかるという事で、自治体がやっている病院というものは、皆、全国1000ぐらいあるのですが、その7割ぐらいが赤字だそうです。

それをちゃんとした、つぶれないような形にしようと思うと、もっともっと税金を投入することになります。例えば税金が2倍、3倍になるとか、それはいやじゃないですか。非常になかなか解決が難しいと。昔は河南町にも診療所があって、平成15年度まで、6年くらい前までありました。記憶している人がいるかもしれません。そのやめた原因というのは、赤字でとにかくもたなくなつた。このままいくと、みなさんのお父さん、お母さんにもっともっと負担がかかると。

お医者さんにかかる人はいいいのですが、それは、お医者にかかる人だけで、病院とか診療所を維持できるかということ、とてもじゃないが維持できない。医者にかからない人にも負担をしてもらおうと、要するに皆で負担をしていこうということ。そういう仕組み。医

者にかかる人はすぐにでも隣に必要だけれども、普段元気である人は、そこまで協力できない、というかもしれない。非常に難しい問題です。すぐに造れるという答えはできません。なかなか難しい。でも、皆さんが願っていることは、みんなが願っていることです。何かいいアイデアがあれば。

河南町は、公共施設付近から離れば、街灯が少ないのではありませんか。特に石川や平石地区は登下校の際、不安だと思います。街灯や道路をもう一度見直して、危険な箇所のチェックと改善をすれば不審者対応にもなると思います。

【回答 総務部長】

街灯といっても色々あります。総務部が担当しているのは、皆さんの各集落の中にある防犯灯です。電柱についている蛍光灯みたいな、ちょっと長いのが、あれが防犯灯です。2年前まで町が地区の要望を受けて、町が工事を発注して、発注というと、ちょっと難しい言い方ですが、業者に依頼して工事をしてもらっていました。去年の4月からは、地区で付けてもらえるようにしました。地区の方で、地域の方で工事の業者さんに頼んで、付けてもらおうと、補助金を町が出しています。その付ける場所は、地域の皆さん、隣組とか地区の人たちが話し合っ、ここが暗いな、ということなら、そこに付けてもらったら、そこに補助金を出すという仕組みになっています。これはお父さんとかお母さん、地区の皆さん方で話し合ってもらって、暗いところを明るくしようと活動をしてもらったら町が補助金を出している、ということになっています。

それと電気代は、半分半分で、大体半分ぐらい地区で負担してもらって、あと半分は町が電気代を補助するということになっています。それが地区の中の防犯灯、20ワットの防犯灯です。最近では32ワットで明るくしてもらおうと、20ワットだと暗いので、これからは32ワットに切り替えていくことになっています。ひとつ進歩した形で明るくしようと活動しています。

そして、地区と地区の間が離れているところがありますが、家が建っていないところ、そこが、皆さん、通学で通られるところだと思いますが、そういうところは、町の教育委員会の方で、そういう場所であったら、考えていこうということになっています。

【回答 教育次長】

考えていこうということではなしに、付けております。総務部長さんの方からお話がありましたけれども、道に付いている街灯には、3つの種類があります。一つは道路上にあります、交差点とか曲がり角とか、道路を照らすためにあります。それと今、おっしゃった地区の中で付いている防犯灯です。それと後で出ました私どもの通学路に付いています通学路を照らす照明です。という3つのものがあります。

教育委員会では、皆さん方が暗い中をより安全に通っていただくための道を照らす街灯ですね、それは教育委員会が設置して、電気代も教育委員会が払っております。その暗くなってきているところについては、明るい電球に取り替えたりしています。この道もそうですし、白木バイパスにおいても、明るい電球に変えたりしています。以上です。

【回答 町長】

皆さんの感じていることは、一緒だと思います。私は前に会社に勤めていた時、会社の同僚というか友達がたまに来るわけですけど、みんな大阪市内に住んでいるのです。車で来るのです。9時、10時、11時と夜遅くなったら、前見ても、後ろ見ても、車が1台もないわけです。我々乗っている車、街灯はほとんど昔、付いていなくて、「何やこれ、真っ暗やないか」とよう言われました。やっぱり都心に行くと、街灯の明かりだけではなくて、ビルの明かり、信号とかもいっぱいあって信号の明るさとか、いっぱい明るさがあるわけです。余計、河南町の地区と地区の間は、暗く感じるね。

でもあんまり明るくしすぎると、先程も言ったように農業している人が困るという、難しいね。でも、事故したり、怪我したり、犯罪に巻き込まれたり、そういうことは優先的に防犯灯がなくてはならない。こういうことは、相談して地区の人と一緒にやっていかなくてはならないね。

河南町にはコンビニが何軒かあり助かっています。でも、ある地区にかたまっているように思います。そこで、河南町の商業施設の中心地区を決め、地域のお店が活気づくようなロードのようなものがあれば、人が集まると思います。

【回答 まち創造部長】

河南町には、「河南町都市計画マスタープラン」というまちづくりをどうやっていこうかという本もあるわけです。それで今、コンビニはある地域に決まってある、ないところには何も無い、確かにそのとおりです。白木でもあるのですが、まちづくりをするにあたって、河南町は見てのとおり、農業、田んぼがほとんど多いわけです。工場もごく少ない。ということで農業の補助金をもらって、まちづくりをやっていこうと、農業を大事にしようという方針で河南町は過去何十年やってきたわけです。農業を基盤にしたまちづくり、ということで、難しい言葉で言うと、農業振興地域という位置付け、農業を振興していく町、という位置付けをしました。一方、もっと賑やかな大阪市内、例えば富田林の賑やかなところみたいに都市的なまちを進めていく、法律制度でいうと都市計画法という法律があって、市街化区域と市街化調整区域があります。先に言ったのが、農業振興地域という法律によって法律に基づく位置付け。都市的なまちづくりをするには、市街化区域と市街化調整区域という二つのまちづくりの大きな区分があります。

河南町の場合には最初に言ったとおり、農業を基盤にしたまちづくりをやっていこうということで、農業振興地域、市街化を促進しない地域、逆に言うと農業を振興するという位置付けをし、なおかつ都市的なまちづくり、うちでいう市街化調整区域、市街化を進めないよ、というような意味の市街化調整区域と農業振興地域というこの二つの網をかぶせたのです。あまり積極的に都市的な整備はしない、というような二つの網をかぶせたのです。都市的な整備をしていこうという位置付けは、大宝がもう何十年前に市街化区域に設定したわけですが、その次に石川地域で市街化にしようとして設定しました。

今現在は、さくら坂、鈴美台も市街化区域に設定しているけれども、この庁舎の周辺、あるいは神山、寛弘寺とか山城の手前まで、この西側はすべて調整区域、都市的な整備は積極的にはしない、抑えていこうという位置付けになっている。したがって、商店が進出しにくい状況、ただそれではいけないということで、3、4年前からこの役場の前から寺田北の交差点、やはりこの役場庁舎の付近には、そういう店舗が欲しいなということで調整区域ではあるけれども、一定の規模の商店は進出できますよ、というふうな土地利用の位置付けはやっています。

ただ日本は資本主義ですので、そういう店舗の土地利用をしてもいいよ、という位置付けをやっているけれども、そういうお店屋さんとかは、儲からないことには来てくれない訳です。役場がコンビニをするわけにはいかない。いけないことはないけれども、通常役所は、コンビニや喫茶店をしないから、お店を開こうと思う人は、ここでお店をやって儲かるのかというめどが立たなかったら、お店は進出しません。ということで、我々も河南町のこの通りを「なんとかロード」として、賑やかなところにしたらいいかんと思って、そ

ういうお店屋さんが進出できるように位置付けをやったのですが、その土地をお持ちの方がここで店をやったら、儲かるということならお店もやってくれるだろうし、まだ今のところ、最近、特に不況だということで、お店さんの進出もなかなかないというような状況なのです。

決してお店屋さんを一切あかんというまちづくりはやっていない。この通りには、お店屋さんが欲しいな、あるいは他のところでもここは農業以外に他の土地利用をしたいな、という位置付けをしているのですが、そういう希望の人、ここで商売やってみよう、ここで工場やってみようという人が現れないことには、町が直接、お店をする、工場をするということとはできないので、そういう人が出でくれるのを待っている状態です。

で、最近ひとつ希望の星としてあるのは、芹生谷、中地区にスーパーの「オークワ」さんが河南町に進出しようということで、土地の確保をされている。これはまあ、ここ2、3年の間に見ることができかな、という希望の星として楽しみにしているという状況です。以上です。

中学校では、朝の時間に読書をしています。そのため、学校の図書室や町の図書室で本を借りたりしていますが、読みたい本が見つからなかったり、話題の本はなかなか順番が回ってこなかったりします。そこで、町に書店があれば、世代を超えて人が集まり、話題の発信地になっていくと思うのですが。

【回答 教育長】

実は半年前に毎日新聞が、河南町が学校等の図書室、公民館の図書室等に大変たくさんお金を使って、図書を購入している。大阪府で3番目か、4番目でしたね。そういう記事を書いてくれました。つまり、河南町は十分ではありませんが、本を読んでもらえるという環境づくりが非常に大事だと考えておりまして、今もかなりお金をつぎ込んでいます。おそらく南河内では、生徒一人当たりの年間図書購入費は南河内で一番多いです。来年もおそらく一番でしょう。従って皆さん、特に中学校では朝、本を読むという大変優れた取り組みをしてもらっています。これからも読書に力を入れていただいて、また、我々もそこにお金をつぎ込ませていただきたい、こういうふうに関に頑張っていきたい、と思っています。

【回答 町長】

読みたい本というものは、人それぞれ趣味を持っているので、全部そろえるというのは無理です。自分の読みたい本がその場になかったら、それが手に入る方法というものはあるんです。少し時間はかかるのですが、そういう方法はあるのです。例えば府の大きな図書館から一時的にその本を借りたり、ということもできますよね。それからまったくだめ、ということはないんだよね。今読みたいときに、今本が欲しい、というのはちょっと無理があると思うんだけど、少し待つて融通を利かせてもらえる。そういうことが可能なようになっていきます。

町の図書室はいつも話題の本などを揃えてくださって、楽しみにしています。ただ、毎日部活動が終了した後はすぐに図書室も閉まるので、なかなか立ち寄ることができません。週に何回か、開室時間を延長してほしいです。そうすれば、もっと本に親しむ機会が増え、仕事帰りの大人の人も立ち寄れるのではないのでしょうか。

【回答 教育次長】

今、公民館の図書室は5時まで開けています。皆さん方にご利用いただいていると思うのです。大いに利用いただいて結構な事なのですが、祭日を除きまして、土曜日も日曜日と同じように開けています。今のところ、土曜日、日曜日に皆さん方がクラブ帰りに利用していただければと思いますので、よろしくお願いします。

【回答 町長】

どうしてもクラブが終わってから、見たいな、ということもあるかもしれないよね。皆さんがたくさん、1人ではなくて、まさにそう思っている人がいたら、試しにやってみてもいいかもしれない。やってみてその、やっているわりには誰も借りに来ないというのだったら、その時はまた元に戻せばいいし、そんなトライを、チャレンジをやってもいいのかな、と思います。

私たちは、普段から消防署の方々や役場の方々のお世話を受けていますが、接する機会がないので、どのような仕事をなさっているか分かりません。特に、将来、消防や救急の仕事に就きたいと思っている仲間もいます。また、仕事を実際に見学することで、防災への意識が高まったり、町民としての誇りも持てると思います。そこで、長期休業などを利用して、職場を見学できるようにしてほしいです。

【回答 町長】

できます。消防長、できますよね。

【回答 消防長】

河南町の中で 24 時間いつでも、出勤できる部隊を持っているところは、消防署だけです。消防以外の仕事も結構あります。例えば犬が田んぼの中で孤立して助けてくれ、猫が 13 メートル程の深さの古井戸に落ちたから助けてくれとかありました。あと断ったのは、猫が印刷機に尻尾が挟まれたとかいうのは、それはもう印刷機を潰して下さい。

川で鴨にルアーの針が引っかかって助けてあげてくれとか。こういうのは、消防署の業務ではないのですが、一般の人が助けようとして、怪我をしてしまったら危ないので、国民の身体・生命を守るということで、代わりに出勤しています。よくニュースで、犬を助けるシーンは、あれもその観点から行っていると思います。

実際の業務は色々あります。例えば、一般の人たちのための月 1 回の救命講習を行っています、中学生の方でも受けたいといえは受付しています。あと警察と合同でタンクローリーを停車させて、危険物をちゃんと設備できているか、消火器はちゃんとあるか、そういう点検をしています。あとは工場の消防設備を点検したり、緊急、火事以外、色々やっています。

毎年、中学校から 10 名ぐらいの 2 年生が職業体験で、去年に来てもらって体験してもらいました。隣の診療所の上からロープで降りそうと思ったら、ちょっと怖がっていた子がいたりしていました。

24 時間いつでもいますので、興味がありましたら、いつでも、出勤しているとき以外は、受付できますのでよろしくお願いします。

【回答 町長】

地震の時はね、特に大きな地震の時には、中学生の皆さんが一番頼りなのです。お父さんやお母さんが外に働きに出ているので、すぐに帰ってこられない。お家で仕事されている方もいらっしゃるけれど、農業されている方もいらっしゃるけれども、遠い場合もあるわけです。おじいちゃん、おばあちゃんがいらっしゃるけれども歳をとっていますと、思いっきり力が出せないし、高校生だったら、高校は遠いところにあるので、中学生だったら、河南町内にあなたたち毎日いるわけです。一番、大きな地震が揺った時には、中学生のあなたたちが一番頼りになります。そういうことで、しっかり勉強してください。そしてど

うしたらいいか普段から考えていてください。

町民が普段過ごす場所、例えば、公園やバス停や学校などで、みんなが取り組めるような緑化の活動や、川に蛍を取り戻すようなキャンペーンを町が中心になって行えばよいと思うのですが。

【回答 町長】

今、既にいくつかあります。ちょっとそれを言ってもらいましょう。

【回答 住民部長】

今おっしゃったように1人がいくらきれいにしても、住民が大切な誇りを持ってやらないといけない。美しい町にするには、皆が協力してやらなければならない。そのために町は、年1回、9月中旬ぐらいにクリーン・キャンペーンをやっていきます。皆さん、お父さんやお母さんに代わって、参加するという気持ちが大事なわけです。お父さん、お母さんは各地区で参加して、缶を捨てたり、川をきれいにしたり、それとまた、ボランティアの方で、お年寄りとか、青年団もそれぞれの公園をきれいにしようと、実際にやってもらっています。各地区でやってもらっています。

やはり考えられるのは、皆さん、一人ひとりが缶を捨てたり、川に油を流すとかについて、大人を注意するぐらいの活動をやって欲しい。

それと河南町でも蛍はいます。私の住んでいるところでも夏、池の周りで蛍が数十匹飛んでいます。とてもうれしい。なぜかという、その時、蛍を大事にしようと思ったら、農薬について意識を持たなくてはならない。やはり川とか、そういうものを大事にしなくてはならない。昔は僕らが小さい頃には、蛍がいっぱいいました。だんだん少なくなってきた。その原因は何かという、やはり皆、田んぼで農薬をまいた。その代わりに蛍が死んでいく、ということになった。直接、洗剤とか、油とかを流したりして、だんだん少なくなっている。最近では下水道を整備するとか、合併浄化槽できれいな水を流そうということで、段々と蛍も出てくるのかなと思っています。河南町で、蛍をもう一度見たいということで、緑をきれいにしていこうと思っています。昔、すべて山は伐採されて、地肌が見えていた。最近、色々な状況で木が茂ってきています。杉の木も大きくなってきていますので。

小学生の頃を思い出すのですが、山をクレヨンで描いていたのですが、そうすると明るい色で描いたという記憶があります。最近では、真っ黒なところばかりですけど。やはりそれもひとつ大事なことで、できれば花とかさくらとかの季節になったら、季節感のわかるような花や木が変わってきた、季節によってやはりこれらを求めていくのと違うのかなと思っています。

やはり皆さんがクリーンキャンペーンに、お父さんお母さんの代わりに参加するような気持ちが大事になって、もちろん町もそういう運動をこれから展開していきたい、進めていきたい、そのように考えています。

【回答 まち創造部長】

緑について、私の方から補足させてもらおうとすると、「広報かなん」を読んだことのある人はいますか。毎月初めに家に届くと思うのですが、その「広報かなん」の中に役場からのいろんな情報がそこに載っているの、忙しいと思うけどちょっと軽く読んで見てください。今月号、2月号はもう届いたかと思うのですが、3月1日の日に、さくら坂の斜面を緑化しようという記事が2月号の広報に載せました。河内小学校に集合してもらって、さくら坂にどんぐりの苗を植えようと、いうことがまずひとつ。去年の12月にさくら坂に「山桜」の植樹を行いました。

広報では定期的に、そういうことを、植樹活動、緑を増やそうと、行っています。「広報かなん」を見て欲しい。一方、弘川寺で「さくらまつり」を行っている事を知っている人は、手をあげて。弘川寺の前の山に、あそこに大阪府の府民の森、「千年の森」ということで、里山を回復、整備をしようと、「里山倶楽部」という団体があります。そこには入りたい人は自由に入れるのですが、「里山倶楽部」というボランティアグループが河南町の荒れた山を復活しようと、そういう活動を行ってくれています。弘川寺の「さくらまつり」の中でも、希望者の方を募って、植樹をしようと、いうこともやっています。

それとちょっと難しい、聞き慣れない言葉ですが、「アドプト・フォレスト」といって、日本の荒れた山をボランティアで、会社とか団体の力を借りて、そういう方々に山の再生を行ってもらおうと、大阪府内で今現在、18ぐらいの団体が山の再生に取り組んでくれています。河南町の中でいいますと、弘川寺の前の「府民の森」であべの近鉄百貨店の社員さんがボランティアで山の再生に取り組んでいただいています。

だから君たちの中でも山の再生に取り組みたい方がおられたら、「里山倶楽部」とかあるいは、ボランティア活動で山の再生、緑を増やそうとか、「アドプト・フォレスト」でいうと、四條畷市立田原中学校の中学生がボランティア活動に取り組んでいますので、ホームページで調べてもらったらいいかなと思います。

色々といいましたが、町の広報で植樹の募集も行っています。また、ボランティア団体も町内にあります。町内で近鉄百貨店さんが緑の再生事業に取り組んでもらっているというようなことをやっています。また、具体的に何かあったら、我々の方に、役場の2階にありますので来ていただいたら、色々ご紹介できるかなと思いますので、よろしくをお願いします。

【回答 町長】

3月1日には、もうひとつあります。さくら坂の植樹プラス河南町の石川の河川公園で、石川と大和川の大クリーン作戦があります。川をきれいにしようというキャンペーンを南河内地域の河内長野、富田林、太子、河南、千早赤阪、藤井寺、松原それと大阪狭山が一緒になって、3月1日朝9時から、よかったら、石川の河川公園で、お家の人、お父さん、お母さんと一緒に参加してください。以上です。

河南町の花であるユリを、私たちは普段意識して見ることはありません。町のシンボルとして町民に徹底させるため、役場や学校、公共施設を中心に植えたり、町の標識などにイラストを使えばいいと思います。

【回答 総務部長】

町の花は「ゆり」です。これは、昭和54年に町の木「さくら」、町の花「ゆり」の二つを決めました。町の花「ゆり」について、皆さんもうひとつ、目にすることがない。親しみを持ってもらうには、弱いところがあります。というのは、町の花「ゆり」は大体、山ゆりの種類なのです。一般にお花屋さんで売っている「ゆり」とは違って、町の花「ゆり」は山ゆりの種類で、「ささゆり」です。自然に恵まれた山間部に自分で生えているという「ゆり」なのです。これは、学校とか公共施設で栽培することとなってきたら、ちょっと難しい面がありまして、大量に住民の皆さんに「ゆり」を作ってもらおうと、「ゆりいっぱい運動」をなかなかしにくいところがあります。

弘川寺で、この「ゆり」を栽培しようと、「千年の森」で住民の方が植えてもらって、「ゆり」を植樹してもらったりしています。一部、そこに行けば、見えることになるのかなと思うのです。そういうことで非常に難しいのです。町としては、この「ゆり」を町の花として宣伝しようと、町の役場の封筒に「ゆり」のカットを入れたりしています。また、職員の名刺には、「ゆり」をあしらったりしています。

町の木「さくら」、町の花「ゆり」ということでやっているのですが、やっぱり「ゆり」を育てたいと思いますが、そういうところにも力を入れていかないと、と思っています。PRするとともに協力をいただいて、町の花「ゆり」をPRしていこうと思っています。

なぜ町の花を「ゆり」にしたかといいますと、昭和54年に今から30年ほど前に、町民の皆さんから町の木、町の花を決めようということで、募集をしたのです。両方とも木も「さくら」ですから、花。花も「ゆり」で、花。両方とも花が咲くということで、「ささゆり」というのは、金剛葛城の山のところに昔は自然に咲いていた。自生していた「ゆり」が山にいっぱいあった。それを切って、花屋に持っていくと1本何百円という値段で売れて、乱獲されたという経緯がありまして、段々少なくなっていく。今は山の中に少ししか残っていません。

学校とかこの辺に植えたらいいということで、昔は一度、トライしてみたことがあったのですが、育ちません。自然環境にすごく敏感で育たない。通常のところではあまり育たないので難しい。山の中の水がきれいで、川が流れている横のところ、育つのです。「ささゆり」は普通の「ゆり」と違って、花が咲くまで4年から5年かかります。最初に種が落ちて、種がひとつの葉っぱだけで、次の年にそこへ球根を作って、二つか三つぐらい作って、3年目ぐらいにちょっとでてきて、4年目に一個ぐらい咲くという。それぐらい時間がかかるのです。そこでちょうど何とか増やしたいということで、山の中から球根を取ってきて、富田林にあるテクノ・ポリターという園芸の学校に、「リンペン」を一個ずつとって、分解して、それを増やすという努力をして、山に返すということをやって、増やして

きたのですが、なかなか難しい。どこの市町村も「ささゆり」のところは、苦労していると思います。

【回答 企画財政課長】

選んだ理由は、花びらが先が広がっているわけです。きれいに広がっている。大きく広がっている。そこが、河南町が未来に向かって、躍進するという意味でいいな、ということで選ばれたのです。

【回答 町長】

もうひとつの木のさくらは、さくらをいっぱいにしょうということで、選んだのです。

エコに取り組む町として、公共施設にリサイクルボックスを設置すればどうですか。

【回答 町長】

3Rという言葉を知っていますか。リサイクル、リユースそしてリデュース。
4Rは知っていますか。もうひとつリヒューズです。もういない、という意味。
それは非常に大事な問題で、そこは悩みに悩んでいるところです。

【回答 住民部長】

最近、電車に乗ったり、地下鉄に乗ったりしたら、きれいになっていますよね。最近、ごみ箱が少なくなってきた。やっぱり今言っているように、ごみを捨てずに、ポケットに入れて持って帰るということです。また、集会所にごみ箱を置いたら、あちらにもこちらにも入れる。だから、皆さんも同じだと思うのですが、ごみを発生させない。発生した場合には各自持って帰る。そして、持って帰ったら再利用する。ペットボトル、缶を業者に持って行って再利用にする。このような運動は、なかなかできないものですが、やがて町民の皆さんにそういうことは、誰でも持って帰ってもらう、ということの運動がまず第一だと思います。

だから町としては、「ごみは持ち帰ろう、町をきれいにしていこう」と展開していきます。だから中学生の皆さんも協力してください。例えば、お父さんが車の運転中に缶を捨てるとか、吸殻を捨てるとか、そういうことは一切やめ。1人ずつやっていかなければ、そういう運動が大事だと思います。その上で、どうしてもということであれば、ボックス、箱を作る、たとえ箱を作ったから、そこに皆がごみを捨てるわけだから、各家でそれぞれ、そんなものを作ってもらったら、なかなか、無造作にしないと思います。

ごみは各自で持ち帰る。この運動を展開していく。皆さんのご協力をよろしく願います。

【回答 町長】

昔はこの辺にもごみ箱は、いっぱいありました。あるときから、ごみ箱を置かなくなったのです。それは、地下鉄サリン事件がきっかけで、そういう心無い人がごみ箱に危険なものを入れたり、そういうことがあったりして、ごみ箱は駅でもずいぶん減りました。コンビニでも分別のごみ箱が3つぐらいありますよね。燃えるごみ、燃えないごみ、空き缶、空きビンとかね。

その分別も、3つ、4つや市とか町によっては20ぐらいに分かれているところもいっぱいあります。ということの研究しながら、ごみは基本的には出さない、という工夫をして、ごみが出たら持ち帰ってください。公共施設にごみ箱を置くよりも、ごみを出さない。というふうに今、世の中の趨勢がそっちの方に向かっています。そういう協力をしてもらいたいな、というふうに思っています。それから小さいことからでも、リサイクルはできます。ペットボトルのふたばかりを集めているところがあります。エコキャップ運動。これ

は、2月14日の産経新聞に載っていたので、あとで見てください。これは、キャップばかりを集めて、ワクチンを買う運動です。キャップ1キログラムを燃やすと、3,150グラムの二酸化炭素が発生する。だから、燃やさない。砕いて再利用する。そういう運動です。特に中学校の生徒とか保護者とかが一生懸命集めて、学校単位とかで集めて、それをお金に換えて、ワクチンにして困っている人に渡す。ポリオワクチンというのですが、1年でキャップに換算すると2キロぐらいある。キャップ、800個ぐらい。800個ぐらいを集めたら、2キロになってポリオワクチン1人分がそれのできる。そういう運動もあるので、中学校全体で何か取り組んでみてください。

そして、ごみを出さない工夫は、要らないものは買わないことです。それと買った時の包装紙はできるだけ簡単にしてもらおう。色々と包んでもらわない。それからコンビニとかに買い物に行ったとき、マイバックを持って行って欲しい。買い物袋はもらわない。それからノートは、裏表を大事に使う。それからご飯食べる時は、マイ箸を持っていく。割り箸を使わない。そんなことがいっぱいありますから、皆さんも考えてみてください。

河南町をもっと他の市町村や都道府県に知ってもらい、そして、関心をもってもらうために何かできることがあるのではないかと思います。河南町で有名な弘川寺にさくらまつりがありますが、町全体の大きなイベントとして、小中学生も参加できるようにすればよいのではないかと思います。そうすれば、子ども達も、もっと西行法師に関心と誇りを持っていくと思います。

【回答 総合政策担当理事】

市町村や他の都道府県にまず河南町を知ってもらおうということで、色々と町としてもやっています。まず一つは、まさに武田町長、自ら率先して動く広告塔として、色々と頑張っていると思います。町長の名刺はちょっと変わってしまっていて、全国を回る時に名刺を持っていただいて、河南町にこういうものがあるんだ、こういうところが有名なのです、というような、今、大阪芸術大学、そのほかに弘川寺、色々な農産物が売られている「道の駅」とか、こういうようなところを写真にしています。

先ず、大阪芸大ですが、河南町にあるのですかというのが他の市町村、都道府県の方々の感想です。そういうことから、河南町をアピールする、名刺を配っている。これも宣伝活動です。選挙活動ではありませんので、間違えないでください。

それから弘川寺のことですが、去年の「さくらまつり」に就任早々の橋下大阪府知事が来られました。その時に非常に感嘆いただきました。「すばらしい、これほど閑静なお寺、地域環境、何一つとってもすばらしい環境です」と言われました。特に南河内地域がPRがしきれていない、ということで、ぜひともこの南河内を何とか盛り上げてPRしたい、というようなお話を知事からいただきました。今大阪府庁の方でも大阪ミュージアム構想を立ち上げていただいて、この4月5日の「さくらまつり」に南河内版のパンフレットを作っていこうと、取り組んでいます。実は今夜もその会合があります。夜さくら、さくらライトアップということも考えながら、地域の方に発信をしていきたいと、考えています。5日が「さくらまつり」、前の日にライトアップをします。

それと河南町だけではなくて、太子町、狭山池の周辺とかと一緒にあって、取り組みをしていきますので、よろしくお願いします。

質問 2E ^{すぎはら}杉原 ^{たくや}拓也

西行法師をもっと知るために、イベントなどで西行法師の和歌のカルタ大会や、西行法師にちなみ短歌の応募を全国的に行い、河南町の知名度をアップさせたらどうでしょうか。

【回答 町長】

とてもいいアイデアだと思います。いつかタイミングがあれば、やりたいと思います。私は、名刺に「西行法師 終焉の地」と入れています。終焉とは、そこで死んでしまったということですが、あの方は死ぬときは吉野で死にたいな、という願望を持って、弘川寺にはわずか2年ぐらいしかいなかった。71歳だったと思います。その前にいっぱいいっぱい歌を詠んでいる。西行法師の跡を辿って、奥の細道を松尾芭蕉とかが歩いたのです。大変有名な人です。河南町には、いい人が来て、いい場所があるので、これからも宣伝して、できたら全国の和歌大会みたいなものを作りたいですね。

河南町のイメージキャラクターがあれば、楽しいと思います。小学生・中学生対象に募集すればどうでしょうか。

【回答 町長】

実はイメージキャラクターは、あるんです。これ、わかりますか。見た事があると思います。町制 30 周年の時、考えられたものです。今 52 周年ですけど、これは「ナスビカメン」と言います。これが町のキャラクターです。実際に 30 周年の時に垂れ幕、横幕を作って、皆に宣伝してもらったのです。提灯も作ったりして、しかも当時はパソコンもなかったの、データで残っていないのです。みんな、手で書いた。手で書いて、手で色を塗ったんです。今現存していないんですけど、その代わりに写真とかが残っていますので、順番に回すので、みてください。30 周年を盛り上げたのです。河南町にキャラクター、あります。

それから次はですね、上下水道課が考えてくれたものがあります。これは、知的財産権、例えば歌とか、それから著作権とか、といった権利が守られるように、今特許庁に申請中です。もう少しあと何ヶ月かで、申請が下りて来る予定です。そうしておけば、誰も河南町の了解なしにこれを使えない、ということです。「オイスイーくん」と「メイスイーちゃん」と言いまして、「美味しい」、「名水」という意味です。これらが申請中です。町の職員で考えました。普通は業者さんにお金を払って頼まなければならないんだけど、町の職員で考えたので、ただです。

それから西行くん、これも町職員で考えたものです。方々に出して西行法師を PR しています。ただし弘川寺には実は、了解を取っていないのです。弘川寺はどちらかというと、これ、好きじゃないんです。弘川寺に遠慮しながら、使っているんです。これも職員が考えました。お金使っていません。ただです。

それから一部の団体が、役場ではなくて、「水越」というロゴマークを作って、河南町のお米を、皆さんの知っているお米はコシヒカリとか秋田小町とかですが、河南町ではいろんな何種類かのお米を作っていますが、ヒノヒカリというコメを作っています。ある地域で限定して、「水越」の水を使っている米にマークを使っています。これも今、申請中です。そうすると、将来「コシヒカリ」みたいな有名なブランドになるかも知れない。

今、河南町にこれだけのキャラクターがありますから、皆さんも小学生、中学生、募集してみたらどうですか。今世の中、ゆるキャラ・ブームですから、「ひこにゃん」とか、奈良の「せんとくん」とか、ああいうぐらいの有名なキャラクターになって欲しいものだと思います。みなさん、応援してください。

河南町は、何といても弘川寺の西行法師ゆかりの町です。太子町に聖徳太子の太子くんの交通看板があるように、西行法師をマスコットキャラクターにして何か作ることにはできないでしょうか。他の市町村にもよいアピールになると思うのですが。

【回答 町長】

おっしゃるとおりだと思います。これはお寺に内緒でやっているのですが、これを大々的に売り出すのは、ちょっと難しい。西行法師さんとお寺の関係の方ですので、どうしても納得してもらわないと、お寺のゴーサインをもらわないと、なかなかいけないので、ずっと前からお寺と話をしています。いい形で、弘川寺さんに納得していただければなと思っています。

ただ西行さんという方は、月を見ては歌を詠み、花を見ては歌を詠み、という心静かな方だから、あまり観光にして、観光客がぞろぞろと来て、お寺の中が大変、あるいは弘川の住民が夜も眠れないというようになると、西行さんは好まない、そういうのは嫌いだらうと、いう感じがあります。

いずれにしても、西行さんにも頑張ってもらって、河南町を有名にしたいと思っています。

質問 1A ^{きのした}木下 ^{ともえ}智絵

太子町は聖徳太子、千早赤阪村は楠木正成、河南町は西行法師が有名です。そこで、この3町村が合同で歴史サミットのようなものを開けばおもしろいのではないかと思います。マスコミも取り上げるのではないのでしょうか。

【回答 町長】

そのとおりだと思います。先程、西行法師の話をしてしまいましたが、有名度は聖徳太子の方が西行法師より有名かもしれないよね。それと楠木正成も結構有名ですよ。両方ともテレビの大河ドラマに出てきていましたから。河南町の西行さんはまだ、なってないので、そういうことで両方がすこし有名なのかな。でも文化人、大学の先生、芸術家の方とかには、西行さんはよく知られている。

3町村がお互いに仲良くして、一つでなんぼ頑張っても限界があるので、仲良くして、一緒になって力を大きくして、そういうことには一生懸命頑張っていきたいと思っています。

太子町、河南町、千早赤阪村に歴史街道のようなものを造り、整備すれば愛好家がやってくると思います。

【回答 町長】

はい、そのとおりであります。これをちょっと詳しく回覧します。「河内ふるさとのみち」というものがあります。いまあるこのパンフレットのなかで歴史街道のようなルートがいくつもあります。今、河南町だけではいけないので、南河内地域と一緒にあって、取り組みをしています。こういう「河内ふるさとのみち」というものがあります。

皆さんもこの地図を手に入れて、一回は歩いてみてくださいね。友達とあるいはお家の人とね。私は、一部しか歩いていません。全部踏破できておりません。でも踏破した人はいますよ。この「河内ふるさとのみち」と冊子を皆さんに一冊ずつあげます。

【回答 企画財政課長】

ところどころに、このような四角の柱が、高さはこれぐらいの、立っているのを見たことはありませんか。道標。これぐらいの四角の大きさで、四角柱が立っているのを見たことはありませんか。大宝の2丁目のところとか、金山古墳の入口にとかに立っていると思うのですが。10センチ角ぐらいで、高さこれぐらいの道標です。これが「ふるさとのみち」の案内板です。

河南町では、これぐらいの10センチ角ぐらいの四角柱が立っているのですが、富田林市とか藤井寺市とか街の方に行けば、これぐらいの大きさの「看板」で、ここは「何何町」ですよ、という形の案内板がかかっているのを、見たことがある方がいらっしゃると思うのですが、各市町村によっては、つける看板が何種類かあって、選ぶことになっていて、大きなこれぐらいの看板は、金山古墳に一個と、持尾城址に一個、河南町は、作っています。他の市町村も何個か作っています。街の中には、こういうふうな、こっちへ行けばどこへ行きますという道しるべがあります。あと、河南町はこういう四角柱で作っています。もう建ててから、何年も経っていますので、ひょっとしたら倒れているかも知れませんが、また町で見かけたら、これがそうかもしれないな、とみていただけたらということです。

【回答 町長】

河南町を有名にする方法には、いくつもあると思うのです。我々は、そういう、こういう活動で有名にしたいと思っているし、皆さんは皆さんで、勉強はいやかもしれないけども、学力テストで例えば日本一になるとか、この間、情報をもらったのですが、テニスで、「梅川 郁美」さんかな、テニスで全国大会に出るということを知りました。この間は陸上部が全国大会に出たでしょう、リレーで。そういうふうな活動があったら、河南町は出るんです。河南中学と出るんです。

だからそういうことも、河南町が有名になる一つの方法なのです。だから、クラブで頑

張る。皆さん方は、勉強するのと運動するのが仕事だから、他の方に行かなくて、よろしい。そこで一生懸命に頑張る。ということで河南町の名を轟かす。是非頑張ってください。そういうことがあれば、町としても一生懸命応援したいと思っています。

【町長閉会あいさつ】

最初は皆さんもコチコチだったけど、最後はいい雰囲気になってきた頃にはもう終わりですね。本日の感謝の気持ちを皆さんに贈ります。

(町長より参加者へ記念品の贈呈)

- 起立の号令 -

【中学生一同】

ありがとうございました。

閉 会

